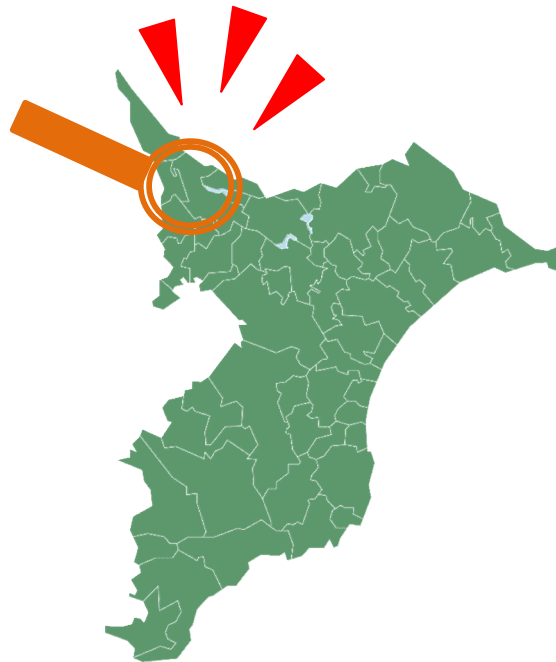


2025・9

# 柏の景気情報

令和7（2025）年9月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和7年9月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

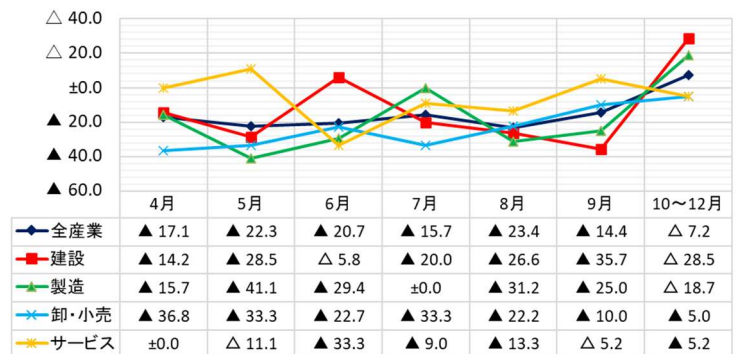
回答期間：令和7年9月19日～令和7年10月3日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数69

各業界、物価上昇に伴う価格転嫁に苦戦。10月以降の最低賃金上昇で収益の悪化が予想される。

9月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、14.4（前月水準▲23.4）となりマイナス幅が9.0ポイント縮小した。

各業界、物価と人件費の上昇を転嫁するのに一苦労。製造業では、物価上昇に伴う価格転嫁が追い付かず、最低賃金の上昇の対応に追われと経営課題の板挟み状態。卸・小売業では、猛暑日が減り、客足は回復しつつあるが、重なる大型商業施設の閉店に東口の人流に変化が見られ客数に影響有りとの声。

柏の景気情報・産業別業況DI



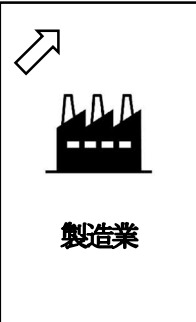
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



### 建設業

「物価上昇に伴い経費コストの上昇は織り込み事項として見込まれる。売上高見込みについては世界状況や政局の安定化が鍵となりそうである」（地質調査）「熊本県のいぐさ農家が水害にあい、甚大な被害を受けた。そのため、これから増える畳工事の際に、熊本県産の畳表をおすすめしようと思う」（畳工事請負・畳製造販売）



### 製造業

「中小企業にとって急激な物価や最低賃金の上昇は、それを吸収する生産性の向上や価格転嫁が追い付かない。大企業のように内部保留があり、値上げの決定権があれば、急激な上昇にも対応出来るが、設備投資を含め生産性向上のための原資が少なく、先行投資が出来たとしてもその効果が現れるまでに時間がかかり、価格転嫁も難しく、人材確保もままならない中小企業にとっては死活問題である」（自動車・同附属品製造）「物価および人件費高騰を理由に値上げ要求がどんどん増えている。自社の利益確保、給与アップをするために速やかな価格転嫁を行いたい」（その他の化学）「最低賃金の引き上げが予定されているが、今秋では是正のための賃上げの必要は無し。ただし、来春には来秋の最低賃金改定分を織り込んだ例年以上の賃上げが必要となりそう」（酒類製造）



### 卸・小売業

「8月は客数が低下していたが、9月に入り客足が復調傾向。原価高騰による値上げで一点単価の上昇は続いているが、生鮮食品を中心にバラ売りや少量パックを増やして客数と点数回復を急いでいる。一方、利益は厳しく経費削減を進めている。効率化をはかり各種経費を圧縮して価格競争に耐えられる体力をつける。」（大型小売）「丸井の閉店、ヨーカ堂の閉店、行政センターの移設に伴い、駅前東口の人の流れが変わり客足に影響が出た」（花・植木小売）



### サービス業

「建材及び住宅機器及び建築費の値上がりは厳しい。一般のお客様の動きとしては、相続関係の相談が増えている。猛暑の影響で動きは鈍い。全体としてはインフレ気味で、様子見のお客様が多い」（不動産管理）「今後、原材料の高騰の影響による収益悪化が予想され、価格転嫁せざるを得ない状況」（日本料理）「景況に目立った変化はありませんが、海外旅行が徐々に回復してきているが国内旅行は減少傾向。近場の旅行はネットに押されている」（旅行）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲14.4に対し、「CCI-LOBO」が▲18.6で、柏のほうがマイナス幅が4.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.4	 ▲ 35.7	 ▲ 25.0	 ▲ 10.0	 5.2
CCI-LOBO	 ▲ 18.6	 ▲ 10.2	 ▲ 23.9	 ▲ 23.6	 ▲ 12.3
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.3	 ▲ 21.4	 ▲ 43.7	 ▲ 5.0	 ▲ 5.2
CCI-LOBO	 ▲ 6.6	 ▲ 4.9	 ▲ 12.9	 ▲ 11.9	 7.5
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.6	 ▲ 28.5	 ▲ 43.7	 ▲ 25.0	 ▲ 5.2
CCI-LOBO	 ▲ 18.5	 ▲ 15.4	 ▲ 20.3	 ▲ 24.8	 ▲ 13.6
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 66.6	 ▲ 64.2	 ▲ 75.0	 ▲ 75.0	 ▲ 52.6
CCI-LOBO	 ▲ 61.5	 ▲ 66.2	 ▲ 54.0	 ▲ 70.8	 ▲ 59.1
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.4	 35.7	 6.2	 5.0	 15.7
CCI-LOBO	 21.1	 34.2	 12.7	 17.0	 28.0
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.1	 ▲ 21.4	 ▲ 25.0	 5.0	 ▲ 5.2
CCI-LOBO	 ▲ 13.5	 ▲ 6.8	 ▲ 18.7	 ▲ 18.0	 ▲ 10.6

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：2025年9月11日～18日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、残暑による外出控えが足かせでほぼ横ばい

先行きは、気温低下と賃上げ期待で上向き見込む

9月の全産業合計の業況DIは、▲18.6と前月比からプラス0.2ポイント。

製造業では、残暑による外出控えの継続に伴い食料品関係の引き合いが減少しているほか、秋物衣料の売れ行きが不調なことで繊維製品関係が振るわず、悪化した。

一方、建設業では、設備投資需要が底堅く推移しており、改善した。また、小売業も一部の百貨店・総合スーパーでイベント効果などがみられ、改善した。

高い水準での賃上げや米関税交渉の合意に伴い、消費マインドはわずかながら上向きつつある。一方、残暑による外出控えの影響が継

続し、業況はほぼ横ばいとなった。

先行き見通しDIは、▲17.3と今月比からプラス1.3ポイント

長引く猛暑や天候不順の影響で生鮮品の価格高騰が予想される。また、10月以降の最低賃金見直しに伴い、人件費の増加を不安視する声が続く見聞が聞かれた。

一方、今後の気温低下に伴い人の往来が活発化することが期待される。また、高い水準での賃上げが続いていることから、消費マインドが緩やかに回復することへの期待もあり、先行きは若干の上向き基調が見込まれる。

#### 【建設業】

「当社管内では、県および市発注の公共工事が増加しており、近隣の建設業者も含め業況が改善している」（一般工事業）

「猛暑が続く中、暑さ対策

として遮熱塗装の営業を強化すべくチラシによる販促を開始したところ、需要の掘り起こしにつながり、受注が増加した」（塗装工事業）

#### 【製造業】

「猛暑で当社製品を販売する小売店の客数が減少している。また、物価高の影響により消費者の節約志向が高まっており、販売数も減少している」（パン・菓子製造業）

「米国関税措置の影響を受けた取引先メーカーで在庫調整が始まり、当社への発注も3か月停止する通達があった」（電気計測器業）

#### 【卸売業】

「10月のWindows 10のサポート終了に向け、パソコン更新需要が高まっている。また、これを機に生産性向上につなげようとする動きがあり、製品のサービスの相談が増加している」（一般機械器具卸売業）

「猛暑や天候不順で生鮮品

の生育が不安定である。品目によつては高値が続くことが予想され、消費者の買い控えが懸念される」（農畜産水産物卸売業）

#### 【小売業】

「猛暑の影響で夏のアウトドア需要が減少するなど、消費者の生活スタイルに変化がみられている。インバウンドも含め、コト消費に対する需要は高いため、家族で楽しめるような体験を提案していきたい」（百貨店）

「大阪・関西万博で地域の食文化を紹介するブースに参加することができ、当社商品をアピールすることができた」（総合スーパー）

#### 【サービス業】

「残暑が厳しい中、台風等天候不良の影響もあつて客数が減少している。こうした中、店内の暑さ対策のための設備投資が必要不可欠となり、業績を圧迫している」（飲食店）

「大規模な設備投資工事の

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲18.5	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲23.5
5月	▲18.0	▲13.8	▲22.3	▲23.7	▲25.2	▲8.5
6月	▲16.8	▲15.2	▲18.6	▲23.5	▲22.4	▲8.5
7月	▲18.9	▲12.3	▲20.0	▲18.7	▲27.1	▲15.8
8月	▲18.8	▲13.4	▲19.7	▲26.6	▲27.0	▲11.6
9月	▲18.6	▲10.2	▲23.9	▲24.8	▲23.6	▲12.3
見通し	▲17.3	▲7.7	▲18.9	▲24.3	▲22.6	▲14.4

影響で近隣の同業他社を含め受注は旺盛、どこでも人手不足で対応しきれっていない状況で、単価も上がっている」（運送業）

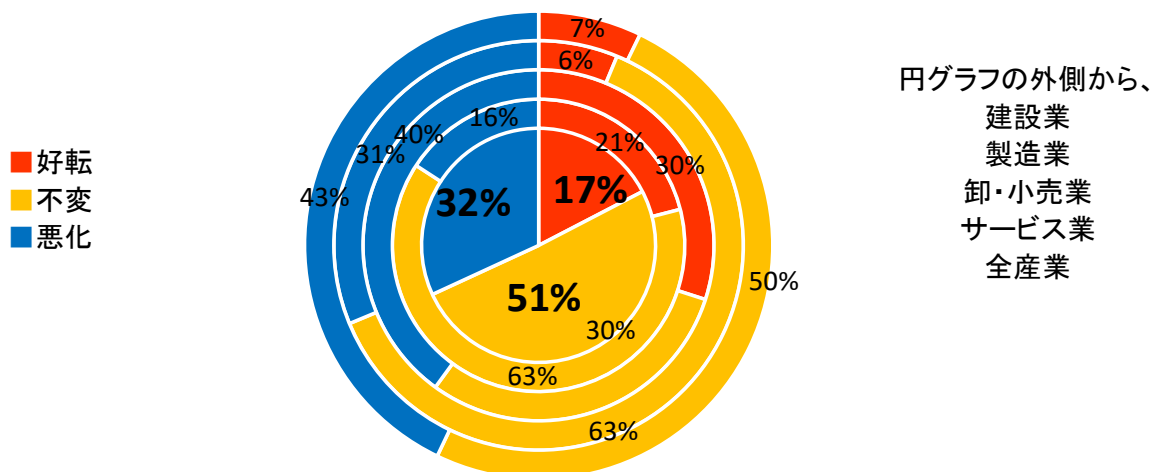


# 令和7年（2025年）9月の動向

## 【業況について】

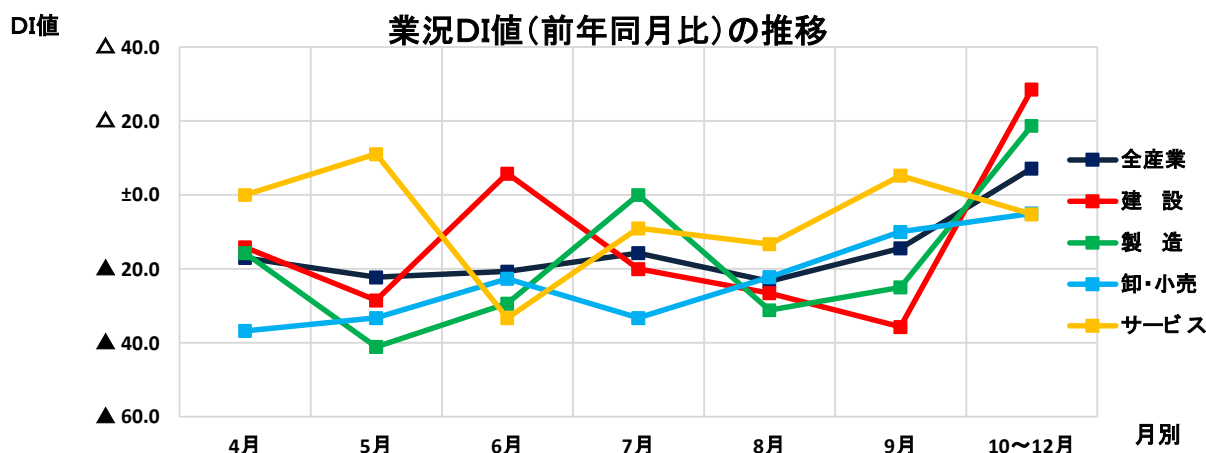
- 9月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲14.4（前月水準▲23.4）となり、マイナス幅が9.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、△7.2（前月水準▲3.1）となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小した。

## 前年同月と比較した今月の業況について



## 業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

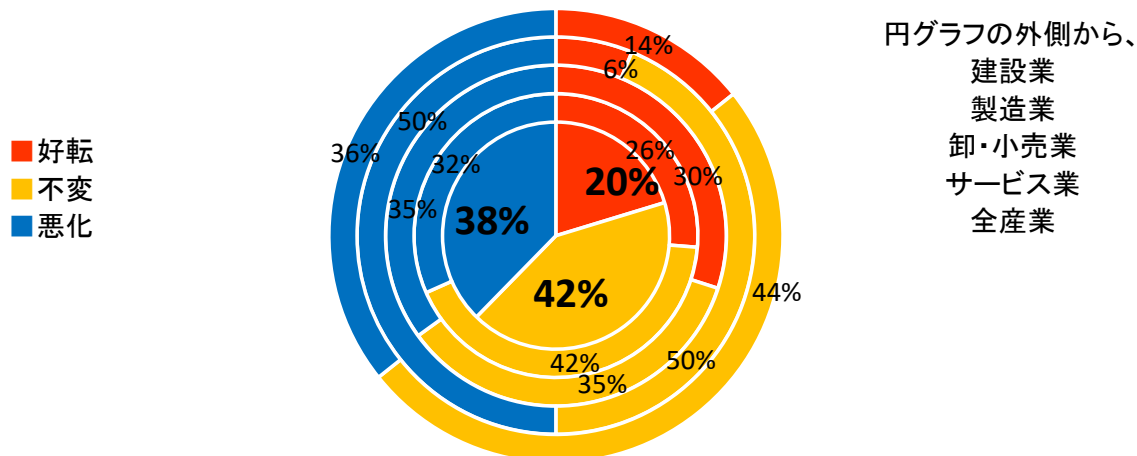
	令和7年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10～12月（ 9～11月 ）
全産業	▲17.1	▲22.3	▲20.7	▲15.7	▲23.4	▲14.4	△7.2（ ▲3.1 ）
建設	▲14.2	▲28.5	△5.8	▲20.0	▲26.6	▲35.7	△28.5（ △26.6 ）
製造	▲15.7	▲41.1	▲29.4	±0.0	▲31.2	▲25.0	△18.7（ △6.2 ）
卸・小売	▲36.8	▲33.3	▲22.7	▲33.3	▲22.2	▲10.0	▲5.0（ ▲27.7 ）
サービス	±0.0	△11.1	▲33.3	▲9.0	▲13.3	△5.2	▲5.2（ ▲13.3 ）



## 【売上について】

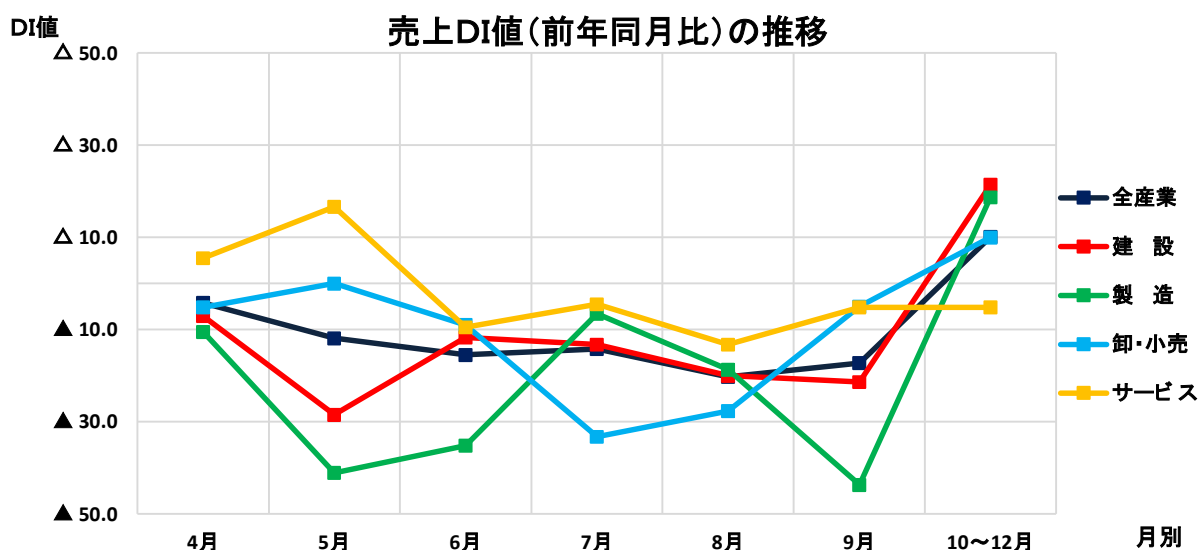
- 9月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.3 (前月水準▲20.3) となり、マイナス幅3.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.1 (前月水準▲1.5) となり、マイナス幅が11.6ポイント縮小した。

### 前年同月と比較した今月の売上について



### 売上D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

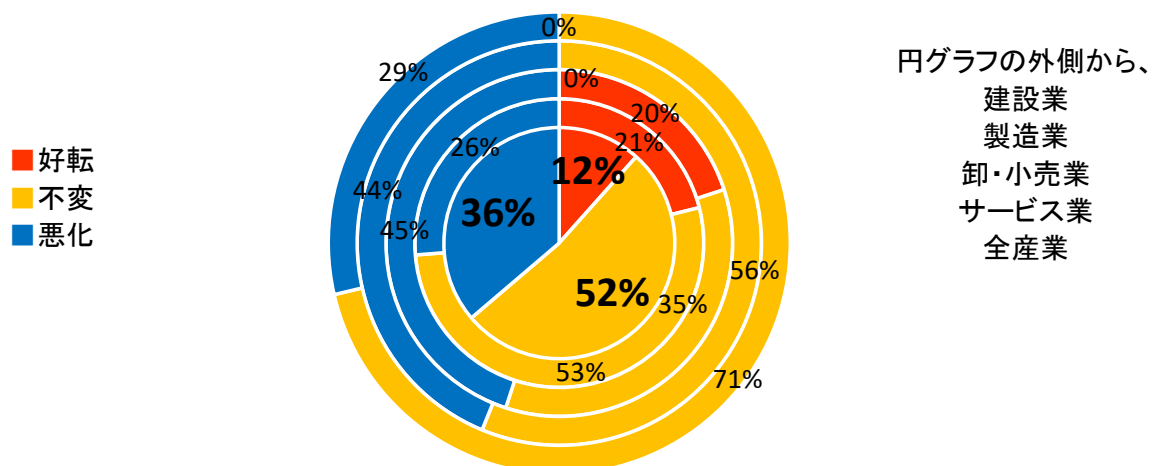
	令和7年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月 ( 9~11月 )
全産業	▲4.2	▲11.9	▲15.5	▲14.2	▲20.3	▲17.3	△10.1 ( ▲1.5 )
建設	▲7.1	▲28.5	▲11.7	▲13.3	▲20.0	▲21.4	△21.4 ( △6.6 )
製造	▲10.5	▲41.1	▲35.2	▲6.6	▲18.7	▲43.7	△18.7 ( △12.5 )
卸・小売	▲5.2	±0.0	▲9.0	▲33.3	▲27.7	▲5.0	△10.0 ( ▲16.6 )
サービス	△5.5	△16.6	▲9.5	▲4.5	▲13.3	▲5.2	▲5.2 ( ▲6.6 )



## 【採算について】

- 9月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.6(前月水準▲18.7)となり、マイナス幅が5.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△0.0(前月水準▲4.6)であり、マイナス幅が4.6ポイント縮小する見通しである。

### 前年同月と比較した今月の採算について

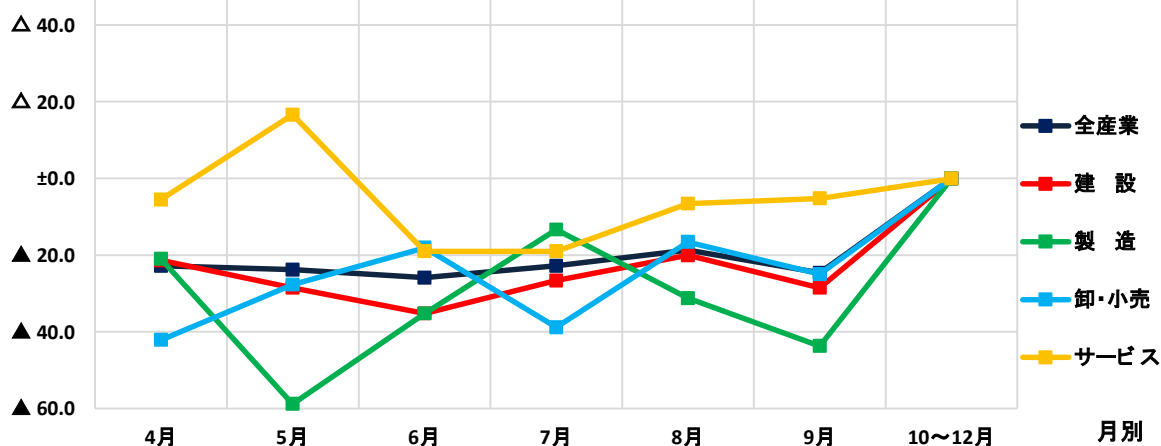


### 採算D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月 ( 9~11月 )
全産業	▲22.8	▲23.8	▲25.9	▲22.8	▲18.7	▲24.6	±0.0 ( ▲4.6 )
建設	▲21.4	▲28.5	▲35.2	▲26.6	▲20.0	▲28.5	±0.0 ( △20.0 )
製造	▲21.0	▲58.8	▲35.2	▲13.3	▲31.2	▲43.7	±0.0 ( ±0.0 )
卸・小売	▲42.1	▲27.7	▲18.1	▲38.8	▲16.6	▲25.0	±0.0 ( ▲22.2 )
サービス	▲5.5	△16.6	▲19.0	▲19.0	▲6.6	▲5.2	±0.0 ( ▲13.3 )

DI値

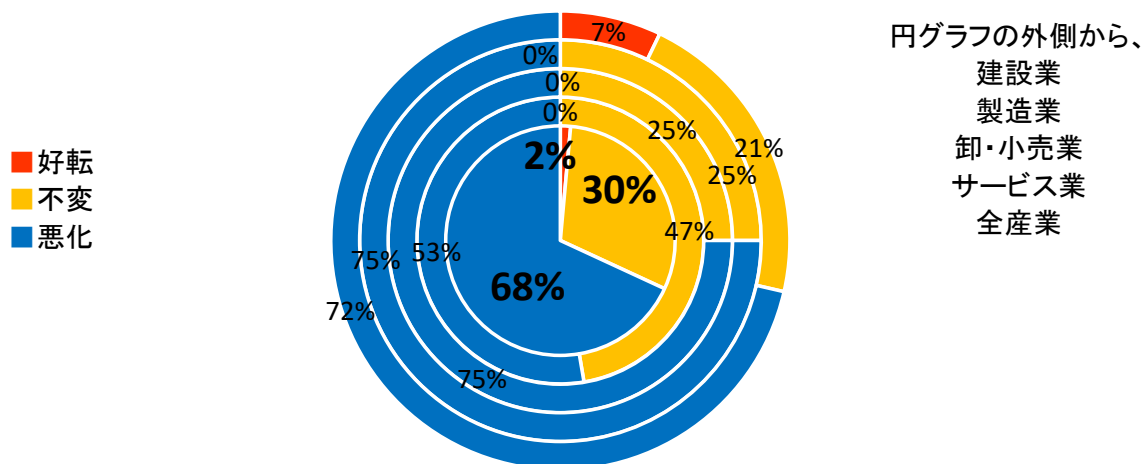
### 採算DI値(前年同月比)の推移



## 【仕入単価について】

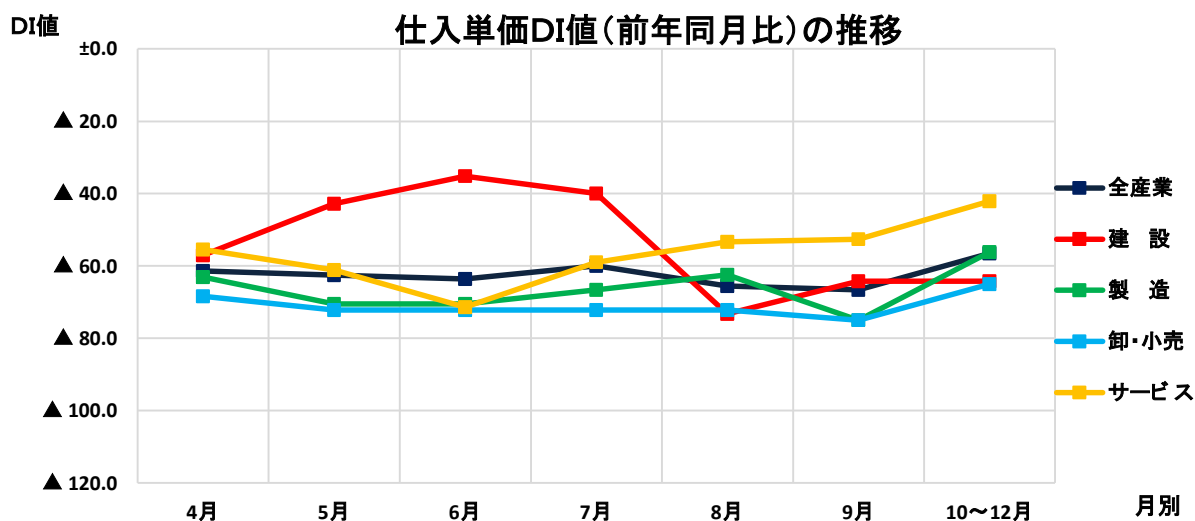
- 9月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲66.6 (前月水準▲65.6)となり、マイナス幅1.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲56.5 (前月水準▲48.4)となり、マイナス幅が8.1ポイント拡大する見通しである。

### 前年同月と比較した今月の仕入単価について



### 仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和7年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月 ( 9~11月 )
全産業	▲61.4	▲62.6	▲63.6	▲60.0	▲65.6	▲66.6	▲56.5 ( ▲48.4 )
建設	▲57.1	▲42.8	▲35.2	▲40.0	▲73.3	▲64.2	▲64.2 ( ▲53.3 )
製造	▲63.1	▲70.5	▲70.5	▲66.6	▲62.5	▲75.0	▲56.2 ( ▲37.5 )
卸・小売	▲68.4	▲72.2	▲72.2	▲72.2	▲72.2	▲75.0	▲65.0 ( ▲61.1 )
サービス	▲55.5	▲61.1	▲71.4	▲59.0	▲53.3	▲52.6	▲42.1 ( ▲40.0 )

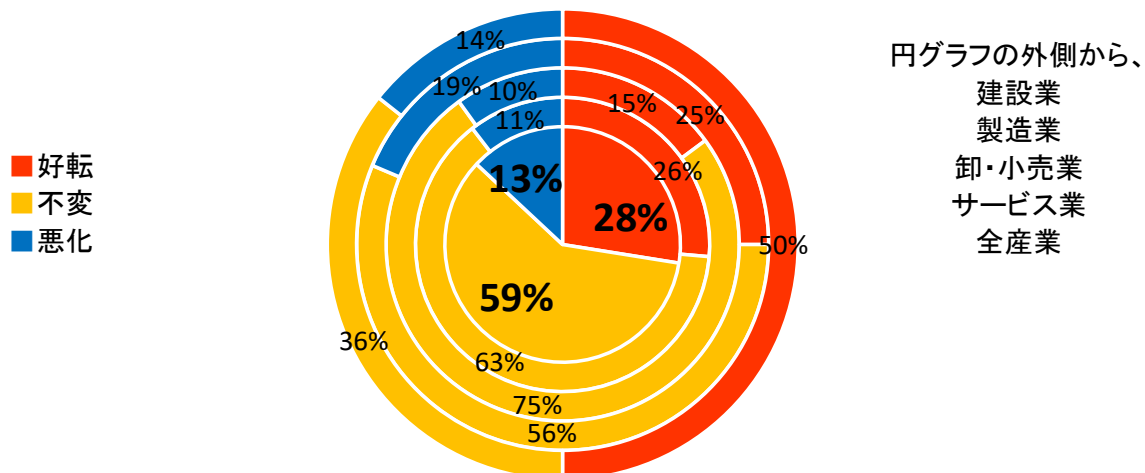


## 【従業員について】

○ 9月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△14.4(前月水準△18.7)となり、プラス幅が4.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△23.1(前月水準△23.4)となり、プラス幅0.3ポイント縮小する見通しである。

### 前年同月と比較した今月の従業員について

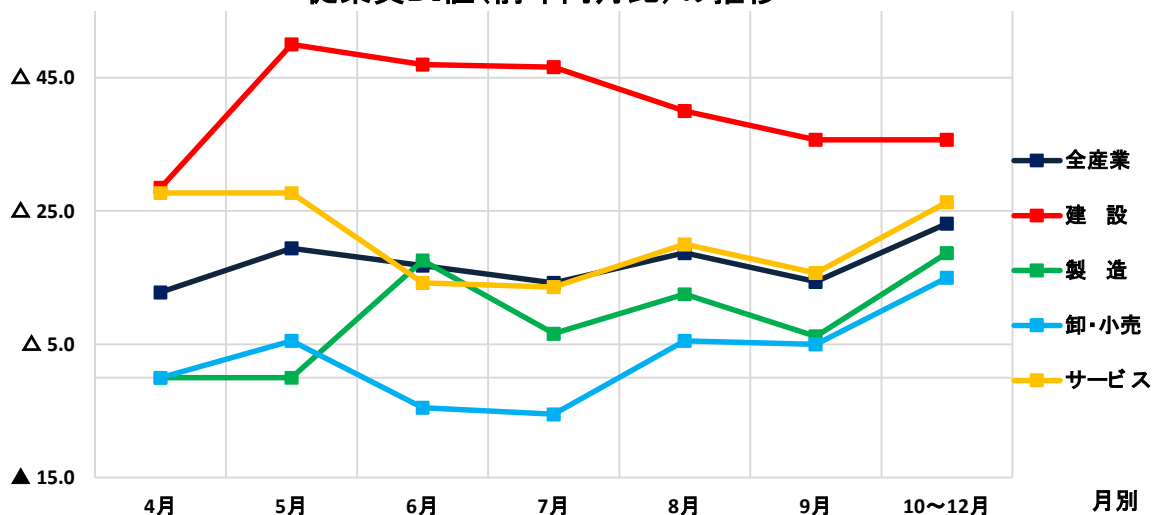


### 従業員D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和7年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月 ( 9~11月 )
全産業	△ 12.8	△ 19.4	△ 16.8	△ 14.2	△ 18.7	△ 14.4	△ 23.1 ( △ 23.4 )
建設	△ 28.5	△ 50.0	△ 47.0	△ 46.6	△ 40.0	△ 35.7	△ 35.7 ( △ 40.0 )
製造	±0.0	±0.0	△ 17.6	△ 6.6	△ 12.5	△ 6.2	△ 18.7 ( △ 18.7 )
卸・小売	±0.0	△ 5.5	▲ 4.5	▲ 5.5	△ 5.5	△ 5.0	△ 15.0 ( △ 5.5 )
サービス	△ 27.7	△ 27.7	△ 14.2	△ 13.6	△ 20.0	△ 15.7	△ 26.3 ( △ 33.3 )

DI値

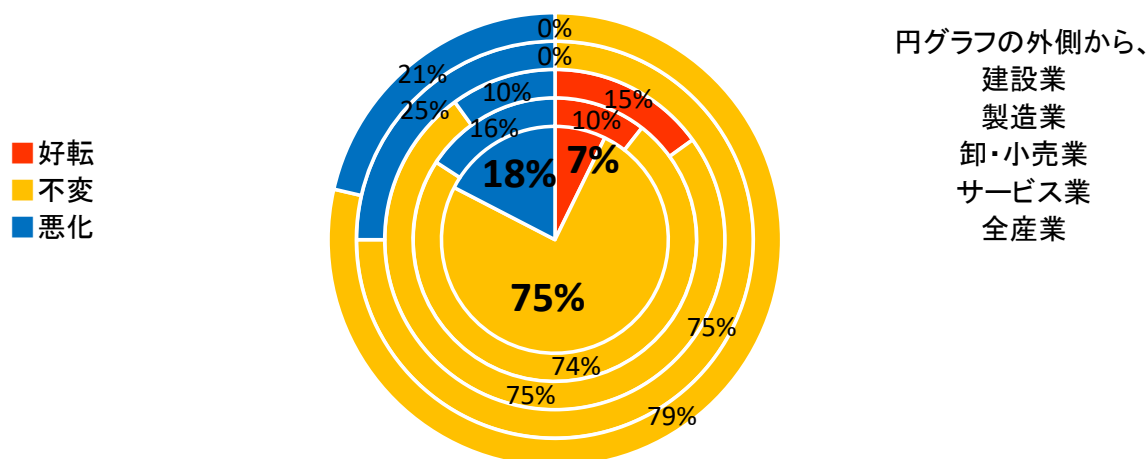
### 従業員DI値(前年同月比)の推移



## 【資金繰りについて】

- 9月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.1(前月水準▲7.8)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.8(前月水準△1.5)となり、マイナス幅が4.3ポイント縮小する見通しである。

### 前年同月と比較した今月の資金繰りについて



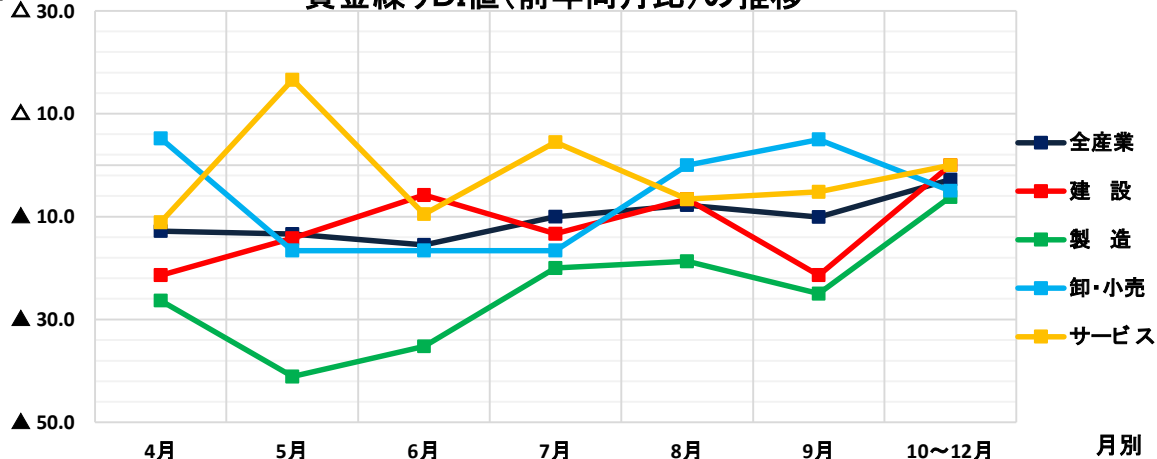
### 資金繰りD I値(前年同月比)の推移

※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月 ( 9~11月 )
全産業	▲12.8	▲13.4	▲15.5	▲10.0	▲7.8	▲10.1	▲2.8 ( △1.5 )
建設	▲21.4	▲14.2	▲5.8	▲13.3	▲6.6	▲21.4	±0.0 ( △20.0 )
製造	▲26.3	▲41.1	▲35.2	▲20.0	▲18.7	▲25.0	▲6.2 ( △6.2 )
卸・小売	△5.2	▲16.6	▲16.6	▲16.6	±0.0	△5.0	▲5.0 ( ▲11.1 )
サービス	▲11.1	△16.6	▲9.5	△4.5	▲6.6	▲5.2	±0.0 ( ▲6.6 )

DI値

### 資金繰りDI値(前年同月比)の推移



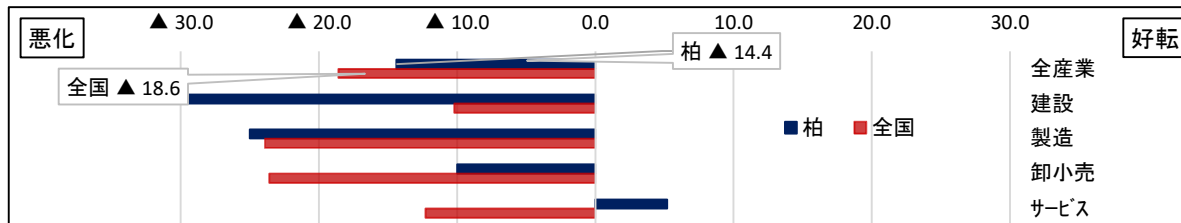


# 全国（CCI-LOBO）との比較

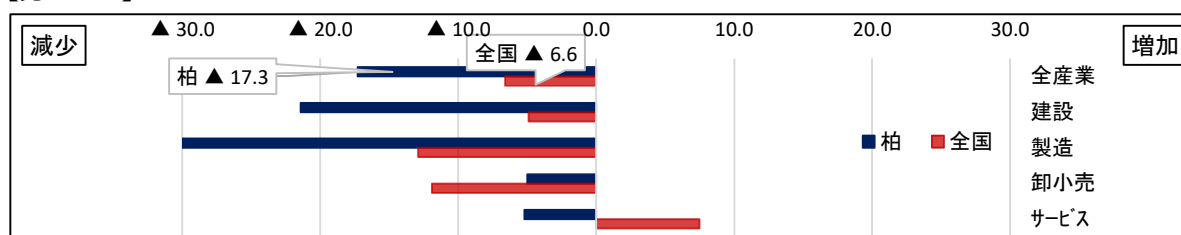
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

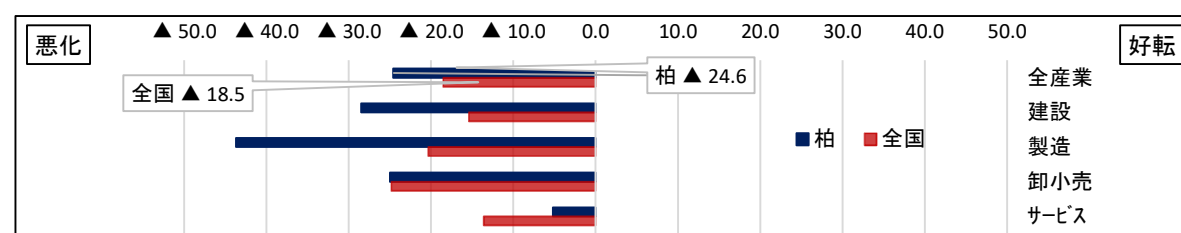
## 【業況DI】



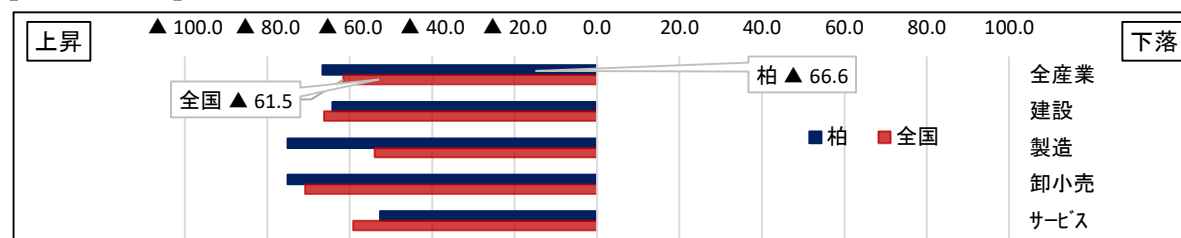
## 【売上DI】



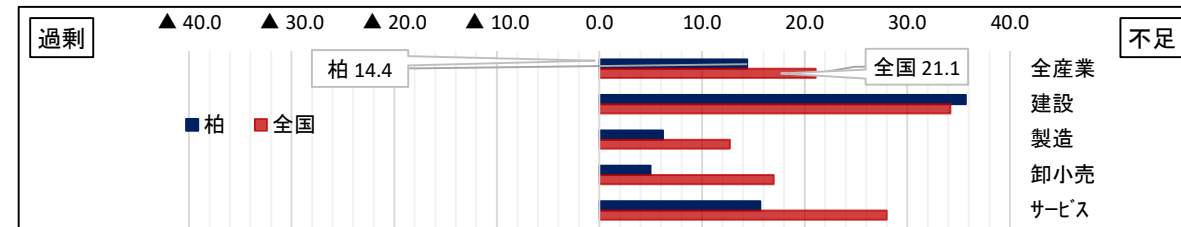
## 【採算DI】



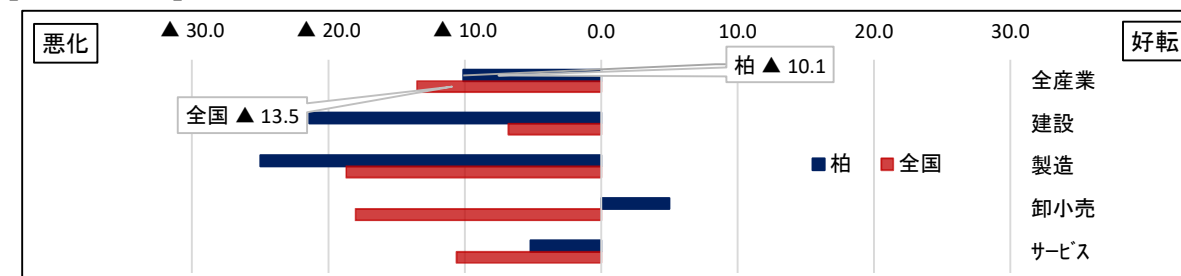
## 【仕入単価DI】



## 【従業員DI】



## 【資金繰りDI】



# 【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	熊本県のいぐさ農家さんが8月11日に水害に遭い、甚大な被害を受けました。これから畳工事が増える時期なので、熊本県産の畳表をお勧めしようと思ひます。	畳工事請負・畳製造販売業
	物価上昇に伴い経費コストの上昇は織り込み事項として見込まれる。売上高見込みについては世界状況や政局の安定化が鍵となりそうである。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	年度前半と比べると後半に行くに従って受注が増えている。年度末に集中するのは各自治体の助成金制度が大きく影響していると思われる	その他の機械・同部品製造業
	医療品容器化粧品容器共に現在抱えている新企画の立ち上がり時期によって今後の成績が決まってくる。後送りされると非常に厳しい。	プラスチック加工
	景況悪化にて設備の切り替えが出来ず、作業時間に影響が出てきている。	印刷業
	最低賃金の引き上げが予定されているが、今秋では是正のための賃上げの必要は無し。 但し、来春には来秋の最低賃金改定分を織り込んだ例年以上の賃上げが必要となりそう。	酒類製造業
	中小企業にとって急激な物価や最低賃金の上昇は、それを吸収する生産性の向上や価格転嫁が追いつかない。大企業のように内部留保があり、値上げの決定権があれば、急激な上昇にも対応出来るが、設備投資を含め生産性向上のための原資が少なく、先行投資が出来たとしてもその効果が表れるまでに時間がかかり、価格転嫁も難しく、人材確保もままならない中小企業にとっては死活問題となる。	自動車・同附属品製造業
	物価および人件費高騰を理由に値上げ要求がどんどん増えている。自社の利益確保、給与アップをするために速やかな価格転嫁を行いたい。	その他の化学工業
卸・小売業	ユーザー対応で値上げ交渉は進まずコスト増を吸収できず、利益率は悪い。人手は若干足りないが今は対応出来る状況(派遣社員が辞めている)。	その他の鉄鋼業
	9月に入り最低気温は幾分下がり過ごしやすくなっているが、マスコミが最高気温ばかり報道しており、お客さまの嗜好は変わっていない。 売場は秋に変更されているが、秋物の動きは鈍い。	大型小売店
	8月は客数が低下し売上が苦戦したが、9月に入り客数が復調傾向。 原価高騰による値上で一点単価の上昇は続いているが、生鮮食品を中心にバラ売りや少量パックを増やして客数と点数回復を急いでいる。 一方、利益は厳しく経費削減を進めている、効率化をはかり各種経費を圧縮して価格競争に耐えられる体力をつける。	その他の各種商品小売業
	例年のことだが高温の日が多く秋物を広げられない。	花・植木小売業
	丸井の閉店、ヨーカ堂の閉店、行政センターの移設に伴い、駅前東口の人の流れが変わり 客足に影響が出て来ました。	鮮魚小売
サ	総理大臣は誰、先行きの日本がどうなるの？	
	そごう跡地が何故柏市が買ったのか未だに不明。三井不動産は何故7年まえ？に買ったのか未だに意味不明。	不動産賃貸業

## 【業種別】 業界内トピックス

一 ビ ス 業	<p>建材及び住宅機器及び建築費の値上がりは厳しい。一般のお客様の動きとしては、相続関係の相談が増えている。猛暑の影響で動きは鈍い。全体としてはインフレ気味で、様子見のお客が多い。</p>	不動産管理業
	<p>今後、原材料の高騰の影響による収益悪化が予想され、価格転嫁せざるを得ない状況</p>	日本料理
	<p>景況に目立った変化はありませんが、海外旅行が徐々に回復してきている、国内旅行は減少傾向 近場の旅行はネットに押されている。</p>	旅行

## 調査要領

回答期間

令和7年9月19日 ～ 令和7年10月3日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	69	39.9%
建設	38	14	36.8%
製造	44	16	36.4%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	19	42.2%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

### ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

### ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 